

津南病院での地域研修 感想文

東京慈恵会医科大学付属病院

研修医 2 年目 河迫桃花

初期研修 2 年目の 10、11 月の 2 か月間研修をさせていただきました、河迫桃花です。初期研修医として初めて参加して地域研修は、今までの大学病院での研修とは大きく異なった環境で、2 か月で医師として成長できる非常に貴重な経験となりました。先に林院長をはじめとする先生方、医療スタッフの皆様に心からのお礼を申し上げます。

初めて津南にきた日は、正直不安でいっぱいでした。越後湯沢駅から車で山道の中を走り、津南ってどんなところなんだろう…と思いながら到着したところは、山に囲まれた自然豊かな場所でした。夜になると街灯も少なく、あたりを歩いてみるも誰も歩いていない…今まで暮らしてきた地域とは大きく異なることを実感しました。

津南病院では、林先生に助言を頂きながら病棟患者さんの主治医を任されたり、外来診察や健康診断、ワクチン接種などの業務をさせていただきました。

病棟患者さんでは心不全、尿路感染症、肺炎、レスパイト、急性膵炎といった、いわゆる common disease を多く担当させていただきました。今まで大学病院研修であったこともあり、自分が主治医となって検査を進めたり、治療方針を考えたり、病状説明をおこなったりする事は少なかったため、今回津南病院でこのような医師らしい経験をさせていただいたことは非常に貴重でありました。治療方針を決める際に林先生に相談を何度もさせていただいたのですが、私の意見を肯定しつつ、最善な方針も提案してくださり、安心して働くことができました。

しかし、地域ならではの苦労も経験しました。津南は高齢化が進んでおり、病棟患者さんの平均年齢もやはり高かったです。そのため、回診にいくも、耳が遠かったり、認知症が進んでいたり、方言がわからなかったり…で最初は患者さんとコミュニケーションを行うことが困難でした。本人の意思の確認が難しい時は、家族の意見は勿論ですが、医師よりも身近に患者さんを見ている担当看護師さんに意見を聞くことの重要性も学びました。

外来診療では、初めて自分で「外来をまわす」経験をしました。外来患者さんは生活習慣病から初診患者さんまで幅広く診療させていただきました。生活習慣病の患者さんではやることの流れは決まっているものの、必要な書類などがあり、慣れないカルテ作業で診療がなかなか進まないこともあり、外来看護師さんにはご不便をかけたと思います。また、初診患者さんでは、主訴から鑑別疾患を挙げて、検査の必要性や方針を素早く判断することの大切さを実感しました。外来診療は時間が命だ、と思わされる日々でした。初めての外来診療でしたが、これは自分にとって成長に繋がること每違いないものだと感じました。

そのほか、この2か月間で訪問診療や、地域で行われている健骨体操、水中運動、津南めぐりも経験させていただきました。特に印象的だったのはやはり水中運動でした。最初、津南病院からの案内に「持ち物：水着」と記載してあるのを見た際は、実のところ何が行われるんだろう…と不安な気持ちを覚えました。実際に水中運動の場に行くと、60代～80代くらいの方が大勢いらっしゃって、その方たちと一緒にプールの中で体操する、という体験をさせていただきました。予想以上に私にとってはこの体操がきつかったのですが、地元住民の方々は軽々この体操をしており、なんと話を聞いてみると住民の方々はこの水中運動を週1回行っているそう。この体操こそが津南の健康を支えているのだろうと考えさせられました。

津南病院での2か月はあっという間でした。それもひとえに、優しく指導していただいた林先生を始めとする先生方、医療スタッフの方々のおかげだと思っています。初めての経験もたくさんありました。この津南病院で培った経験をもとに、今後の研修生活をより有意義に過ごせるよう努力していきたいと思います。2か月間本当にありがとうございました。